

安 全 情 報

No 44 / 2017

報道の自由を求める抗議集会・デモ（バルータ市）に関する注意喚起

野党連合 MUD 及び学生団体は、6月27日（火）、「ジャーナリストの日」を記念するとともに報道の自由を求め、バルータ市において、抗議集会・デモを呼びかけています。

4月以降、野党支持者と治安機関との衝突が相次いでおり、多数の死傷者や逮捕者が出ていることから、不測の事態に備え、下記の情報をご参照頂き、集合場所付近には、絶対に近づかないようにお願いします。

記

1 抗議集会の予定

6月27日（火）午前10時頃より、カラカス首都圏バルータ市ラス・メルセデス地区プラザ・アルフレッド・サデルからデモを開始し、同じくラス・メルセデス地区にある国家電気通信委員会（CONATEL）前で抗議集会を行う予定です。

2 注意事項

- (1) 27日（火）は、リオ・デ・ハネイロ通り、フランシスコ・ファハルド高速道路の一部が閉鎖されると思われます。
- (2) 27日（火）のデモは、リベルタドール市内への移動を予定していませんが、抗議集会後、バルータ市内各地（ベジョ・モンテ等）にデモ隊が再集合し、これを排除しようとする治安機関との衝突の可能性があります。
- (3) 治安機関は、デモを制圧する際、催涙ガスを使用しており、催涙弾が人体に直撃して死亡する事件が発生しているほか、催涙弾の中には、劇症アナフィラキシーショック死や視覚障害、脳障害を引き起こす可能性のあるガスも含まれています。そのため、催涙弾が使用される場面に遭遇した場合は、風上や建物内に避難するようにして下さい。
- (4) 治安機関は、ビー玉状のものを弾頭として使用したスラッグ弾を、ショットガンから発射している可能性があります。このスラッグ弾が命中した場合、ビー玉が身体にめり込み、人を骨折させる程の威力があり、極めて危険です。
- (5) デモ隊の中には、通常の火炎瓶だけでなく、手製バズーカ砲の様なものを使用して、ロケット弾のように火炎瓶を遠距離まで飛ばす可能性があります。これは、完全装備の治安要員を負傷させる程の威力があり、極めて危険です。
- (6) 現下の厳しい経済状況や治安の悪化もあり、当面、夜間早朝の外出及び不要不急の外出は極力控え、できる限り、食料品・飲料水等の備蓄に努め、やむなく外出せざるを得ない場合には、テレビ・ラジオ・インターネット等で、事前に外出先や経路の状況を確認するようにお願いいたします。